

(様式3)

## 自己評価結果票 (ユニット めぐみ 2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人内での理念である「共に暮らす(地域とともに暮らす)」という理念のもと、GHとして、独自の理念を掲げている。(生かされる生活から生きる支援)・(共に補い・支えあう)</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>大本である「共に暮らす」という、理念については、共通に理解し、実践へ向けた取り組みを行っているが、GH独自の理念が浸透するような取り組みに欠ける。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは、『共に暮らす』(機関紙)の発信、家族会に提示を行ない、暮らしぶりや当方の理念を発信している。</p> <p>地域の人々へは、推進会議(地域推進会議)やミニデイ・ふれあい喫茶などへ参加し、理解してもらえよう努めている。</p>	
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の田畑で、作業をされている方へ声を掛けたり、収穫物をいただいたりしているが、日常的に、また継続的にお付き合いが出来ているとは言えない。</p>	<p>地域の方との、日常的な営みを糸口に接点をより多くもち、深くお付き合いができるように、心がける。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>母体の特別養護老人ホームと共同により、地域へ解放された行事(夏祭り・カーニバル・秋祭り)を催したり、地域の方と積極的に関わられるように、ふれあい喫茶への参加を継続して行えるように努めている。</p>	<p>今後も継続して、参加できるようにする事と、老人会などへの交流が持てるように努力してきた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域との交流をもった際に(ふれあい喫茶など)地域の方へも、認知症高齢者への理解が持ってもらえるようにする。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>今後も、自己研鑽を図り、グループホームの運営において、必要なものに優先順位をつけて、今後も継続して行うようにする。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>今後も定期的かつ継続的に行えるように、前もって準備する事や、助言等を頂いた際には、GHスタッフも共通理解できるように取り組んでいく。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>日常的な相談及び制度についての確認窓口として今後も連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>研修で得た、情報を職員研修などに活かし、スキル向上につなげていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>全職員に周知されるようにミーティングなどにより、呼びかけを行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に契約書を元に十分な説明を行い、不明な点がないかその都度確認している。また、法改正による、加算の算定については、説明会を開き、理解と同意を求めており、随時質問も受けられるように窓口を設けている。</p>	<p>継続した対応と、納得いただける利用に心がけたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時及び電話により家族への状況を伝えてはいるが、その他では、家族会にて個別支援計画の意向を確認している。</p>	<p>意見箱等を設け、苦情の早期改善に向けた取り組みや、利用者の意向がくみ取れる環境の整備を行っていきGH運営の向上へ繋げたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者個々の体調の変化などに応じ、家族へ電話にて連絡を行い、必要に応じて個別に意向を確認している。</p>	<p>顔馴染みの関係を形成するための、職員の異動等へは可能な限りダメージを少なくするように努めていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会・電話・面会時が中心ではあるが、その都度家族に意向の確認を行っている。また、苦情に関しても気軽に話していただけるように、『こちらから問いかける』ことを、基本している。</p>	<p>その都度の対応にとどまらず、常に家族の意向や苦情・不満等を引き出せるような環境作りに努めたい。(意見箱の設置等)</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意向をリーダーへ伝え、管理者への投げかけとしているので、その機会は随時設けられている。また、ミーティングでの話し合いの場や職員会議などを中心に意見が聞けるように努めており、その意見をどのように反映できるかを共に考えている。</p>	<p>日々の中での小ミーティングを活用し、早期の解決、方向性が見えるように、今後も引き続き取り組んでいきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現状では、時間管理における必要人員を満たすための勤務表になっており、「本当に、ほしい時間帯、曜日」にはなっていない。</p>	<p>職員が働きやすい勤務表にはなっているが、GHに必要な時間帯、曜日への確保が継続して行えるように、職員とともに考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を形成するための、職員の異動等へは可能な限りダメージを少なくするような職員構成にしている。また、職員の離職の少ない職場になるように、常に相談をしながら勤務表の作成を行っている。		職員の顔ぶれも、利用者にとっては、“住み慣れた環境”であることを、充分理解し、今後も離職ならびに異動への配慮がなされるように、努めていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修ならびに、認知症ケア研修会と題し、定期的な研修の開催や職員のスキルアップにむけた機会を設けるとともに、職員個々の意識の中で、自己学習ができています。		環境的にも、法人が場所提供、確保されておりいつでも、自己のスキルアップができるような環境があるので、今後も継続して行えるように努める。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では行っていない。		地域の同業者と連絡会を持ち、お互いに向上できるよう努めたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	保養所を設けたり、職員旅行を計画したりしている。また、年間を通じ管理者ならびに所属長と職員面接する機会を設け、現状の心身状況などの相談ができる機会を設けている。		職員と対話する機会を多く持ち、心身状態の緩和に努めていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	設問と反するが、職員個々が自己判断により研修への参加や、研修会の情報を提示するなど。大切にしている事は、各自が積極的に向上心を持てる環境を整えたり、必要に応じて、研修への参加の推進等を行っている。また、実績を毎月確認し運営努力につながるようにしている。		管理者だけでなく、職員一人一人が意識をし経営的立場で取り組めるように、実績などの情報を職員に提示してはどうかと考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の事前面談にて出来る限り足を運び、直接会って話すように努めている。また、入居後も本人の不安の軽減につながるように、家族の面会の機会を設けてもらうように、投げかけをおこなったり、電話で話ができる環境がある。</p>	<p>直接面接を継続的に行い、知らない顔がある環境への利用より、知った顔のある環境への利用も心掛けたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族を含め、事前の説明などを十分に行い、その上でホームを見ていただき、ホームの目指す支援の説明を行ったうえで納得と理解のもとで利用いただけるように努めている。</p>	<p>現状のスタイルを変えることなく、出来る限り『聞いて理解・見て納得・わかりやすい説明』ができるような対応を心掛けたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>開かれた福祉サービスの中でも”認知症対応型共同生活介護”の素晴らしさとサービスの内容、目指すべきものの説明を行ったうえで、家族の意向にあったサービスの選択を提示できるように心がけており、利用者の必要としているサービスにおいて、実現へ向けた柔軟な対応にも努めている。</p>	<p>今後も継続して行っていきたい。 また、もっと入居時に現状の把握と予後の支援の方向性を掴んでいきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験的に訪問をいただき、他の利用者とお茶を飲んでいただいたり、お部屋の確認をいただいたりと、可能な限りの対応は家族はもとより、本人に納得していただけるように配慮している。</p>	<p>現状の取り組みを継続して行っていきたい。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>法人理念の『共に暮らす』をモットーに、GH独自の『共に補い、支え合える』関係を築く意味においても、設問の内容に近い支援を行えている。 (家庭菜園)・(調理の味付け、切り方等)</p>	<p>今後も、疑似家族としてではあるが、共に暮らす空間作りに最善を尽くしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	認知症を因とする周辺症状においても、人間としてのお付き合いを忘れず関係を支えていくよう努めている。		今後も継続して、関係が設問になるように、務めたい。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係を第一に考え、ホームが中立の立場での意見をさせていただき、日常での支援を通じ、利用者が求める家族とのつながりの最適な観点を探り、その観点を家族に伝え面会や同行外出などにつながるようにサポートしている。		今後も継続して行えるように努める。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴をもとに、利用以前に通われていた医療機関・理髪店などの利用を基本に支援しており、季節の行事においては季節にちなんだ催しへの参加・季節を味わうための外出等へ取り組んでおり、認知症高齢者個々の記憶に残る環境を作れるように努めている。		今後も継続し続けていきたい。 また、日常的に買い物に行かれたお店なども生活の中で情報収集し、その場への同行へもつなげていく。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように、利用者との会話が楽しめるように配慮し、関係が維持できるように努めている。		今後も継続して行えるように努める。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化において、サービス利用がなくなった場合においても、利用者への面会やグループホームのイベントへの招待をしている。		今後も継続して行えるように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴を日々の生活の中で聴衆し、その内容を記載し職員全員が把握できるようなノート(波乱万丈)を作成したり、日々の利用者個々へのニーズへの対応は、GH日誌へ記載、連絡ノートを活用し希望や意向の把握に努めている。</p>	<p>利用者個々の意向が大切であることを日ごろから職員個々に投げかけ、もっと把握できるように意識し、行動に移していけるように努めたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>長い人生の先輩であり、その人生における歴史がある事を充分理解したうえで、生活歴が把握できるように努めている。</p>	<p>利用者個々の意向が大切であることを日ごろから職員個々に投げかけ、もっと把握できるように意識し、行動に移していけるように努めたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>動作・思考・いつもと違う等の気づきを見逃さないように努めている。</p>	<p>充分とはいえないので、勤務者がお互いの情報を共有できるよう今後も継続して行うように努める。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ならびに、家族に意向を確認し、ケース担当者が原案を作成し、職員全員に方向性が違わないかを確認し、ケアマネおよび計画作成担当者、ケース担当者が協議し、計画作成をしている。</p>	<p>介護計画が元となる事を再度認識し、情報の収集に努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状では、おおむね6ヶ月の見直しのみにとどまっており、現状に即した介護計画としての立案ができていないが、状況の変化に応じた、引き継ぎでその変化における対応を柔軟に行っている。</p>	<p>今後は、おおむね6ヶ月ではなく、必要に応じ、変化に応じ介護計画の見直しに努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌への記載、また、連絡帳への記載により、情報が共有できるようには努めている。		それ以外にも、勤務内における小ミーティングをおおいに活用し、情報の共有また、出来事の把握に努めていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟と言えるかどうかかわからないが、利用者の家族においては、受診等への付き添いができる方には積極的、継続的にして頂けるようお願いしており、急遽の場合の家族等が行けない場合においてはGHが代行という形で、受診等へも行くようにしている。		多機能性と言われることが正しいのかわからないが、ホームにおいて可能な範囲での家族との協力体制は確保できるように今後も、努めていく。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとの連携により訪問を受けたり、学校教育の一環としての小・中学生の訪問がある。また、消防署・警察にもグループホームの存在、利用者についても説明を行っている。地域推進会議においても、地域の自治会長、民生委員などと協力体制がある。		地域推進会議以外にも、定期的なサークルボランティア等の依頼や来所を図りたい。
41 他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、地域のその他の福祉サービスを検討することも視野に入れている。		現状、サービスを活用された経緯はないが、努めていきたいと考える。
42 地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会議を通して、地域包括支援センターからの意見や、指導を取り入れられるように努力している。		平常からの地域包括支援センターとのつながりを持てるように努めていく。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医で受診することを大切に、個々の状況に応じた受診・相談を行い、その指示のもとで予後の対応を検討している。		現状の継続と、更に医師との連携を密にしていきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体の主治医である精神科医及び近隣にある精神科への協力を得ている。		限られた精神科医への相談にとどまらず、その他の専門医への窓口にも相談している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではあるが、正看護師の配置をしており、オンコール体制を整え、いつでも相談できる環境にある。		現状の体制が維持できるように努めたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携だけにとどまらず、家族とのパイ役になったり、早期に退院し、GHでの生活が送れるように、調整を図っている。		現状の取り組みを継続していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向に可能な限り添えるよう話し合いを設け、努力しているが、GHでおこなえる医療的な限界を感じることも事実である。		ホームとしての指針をマニュアル化できればと考えている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師などとの連携を含め、十分とはいえないが努力はしている。		利用者の状態を把握し、医師との連携を図り適切な支援の方向性を見出していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションによるダメージが大きいことは、GHスタッフも十分理解している。 過去の経緯からホームから在宅復帰された方には、情報は、情報を提供するとともに、住み替えによるダメージがないように努めている。		今後も現状をより具体的に分かりやすく情報提供できるような体制を整えていきたい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報において、必要と感ずる部分においては、ホーム内にも掲示しているが、その他の記録物に関しては、管理する場所を目的つくところに置かないように。 声かけにおいても、人格を尊重して行なうように心掛けている。		日常会話での個人情報のやり取りがある様に思う。 プライバシーに配慮し再度、見直す機会を設けたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の能力に応じて、選択肢を提示したり、自己(職員)の判断の中で最善の自己決定が妥当かどうかを試行錯誤している。		今後、自己決定が利用者の中でできるように取り組んでいきたい。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己の生活のペースに応じた日常支援を行なっているが、職員の勤務時間、人数等の制限がどうしてもでてくるが、可能な限り努めている。		利用者の生活に合わせたペースや職員の都合(勤務時間、人数)で日常支援にあたらぬように努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みやその時の気分で着たい服を着ていたり、パジャマのまま過ごしたいといわれれば、自己を尊重している。 お化粧の出来る対応に心掛けている。		外出時など、事前の働きかけにより、本人に出かけるという意識を持ってもらい、おしゃれが出来るような、機会を設けたり、おしゃれが出来る環境を整えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握し、個人に合わせた対応をしている。また、共同作業を通して、畑でとれた野菜を使うことや、役割に応じた食事作りをすることで楽しみにつなげることで、自発的な行動も見られる。		今後も、『食を楽しむ』為の、日常支援や環境を作っていきたい。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その都度本人に聞きながら対応している。また、タバコやお酒、買い物時の個人購入などでは、本人手持ちのお小遣いで好きなものを購入できるように対応している。(食事制限等の方は多少なりとも制限している)		本人の嗜好は、職員個々で日常的には把握はしているが、集約されておらず、記録として残っていない為、今後、記録としても残していけるように努めたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちの良い自然な排泄を心掛け、可能な限り『排泄支援物品』を使わないように、努めている。また、排泄チェック表を用いて、本人の排泄周期を確認しながら、対応すると共に、排泄前のサインを見逃さないようにしている。		今後も継続して、気持ちの良い排泄が出来るように、個人の機能を最大限活かせるように『排泄支援物品』の使用が少なくなるように努めたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴時間は自由にしており、利用者の生活背景からみても、夕食前後での入浴が毎日出来るようにしている。		GHサルビアの最大の売りでもある為、このことが継続的に行なえるようにする。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の自由化と必要に応じた個室の入り口の施錠など、個人レベルに応じた対応をしている。また、可能な限り安定剤を使わない為の取り組みも、意識するようにしている。		安定剤(眠前薬)を使わない為の取り組みとして、日中に身体を動かし、生活のリズムがつけられるように、配慮しなければならないと考える。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過度の声かけにならない範囲で食事、洗濯、掃除など、その内容によって役割的に活動をしてたがっている。		今後も、継続して利用者個々に合わせた対応ができるよう、役割が持てるように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるが、小額で家族の同意がいただけだけの場合、または本人の強い意向から個人的に金銭を管理していただいている。		お金を持つことの大切さを再度認識して、一人でも多くの利用者が、金銭に触る機会を作っていきたい。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意向が表出できる人に対しては、勤務の状況に応じて希望に添えてはいるが、全利用者を対象にみた場合においては、個別の対応が出来ていない。		意向が表出できない方への配慮も忘れず、利用者ごとの対応をしていけるような取り組みも今後行なっていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の意向が表出できる方に関しては、意向を確認し、他の利用者と共にその場へ出かける機会を設けている。		意向が表出できない方への配慮も忘れず、利用者ごとの対応をしていけるような、取り組みも今後行なっていきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けていただいたり、申し出に応じて手紙を書いていただけるように配慮している		今後も継続して行なえるように努める。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫はされていないが、家族・知人・友人等が面会という形で訪問していただいている。		家族・知人・友人等に限らず、近隣住民も気軽に訪問できるように、普段から声をかけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を中心に、拘束を限りなくゼロへ向けた取り組みを行なっている。 また、身体拘束に対する施設内研修および事例をもとに検討し拘束ゼロの支援を心掛けている。		今後も、身体拘束ゼロへ向けた取り組みを行なっていきたい。 夜間の施設もしないことで、より拘束のない暮らしを提供できると考える。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、施錠は一切しない。夜間においては、防犯上の安全を確保する意味において行なっている。 居室の鍵については、自由に鍵をかけていただけるようにしている。		現状のままでよいかと考えるが。 夜間の施錠もしないことで、より拘束のない暮らしを提供できると考える。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーには気を付けているが、見守りおよび所在の把握にかけることがある、行動を共にすることでの拘束になりうることもある。		安全を第一に考え、所在の把握に努めるとともに、利用者個々を大切にプライバシーに配慮する。 また、両ユニットでの協力体制を再度見直していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活において、一律をなくすだけでなく、可能な限り置いて置けるように取り組んでいるが、着眼点の甘さも感じる。		一律をなくすだけでなく、生活環境に応じた必要最低限の努力を行なっていきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員会を中心に事故を未然に防ぐ為の、見守り、知識を勉強している。 また、マニュアルがある。 職員全員が周知されているかどうかについては、職員全員が周知されてるとは言いがたい。		特に、GHという事業所において、緊急時のマニュアルを再度読み直し、職員全員がいつでも、誰でも対応できるように周知の徹底を行なっていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な、訓練などしていない。 職員個々において、偏りがある。		特に、GHという事業所において、緊急時のマニュアルを再度読み直し、研修等での実践を通し職員全員がいつでも、誰でも対応できるように周知・徹底を行なっていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員を中心に、母体の特別養護老人ホームと共同ではあるが、定期的な避難訓練を実施している。 また、地域の人々にも理解されるよう、事前の連絡を行い、消防署を交えた大掛かりな避難訓練を行っている。		今後も定期的に行なえるように、努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ホームで起きた事故については、事後報告ではあるが行っている。 また、状態の変化、もめごと等の窺いや、家族への連絡を心がけている。		連絡をするが、不在の場合があるため、緊急連絡先の再度の確認を行い、現状のように状況の報告を必要に応じて、事前に行ったり、事後に行ったり使い分けをしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化が把握できるように、日々のバイタルチェック・気づきを養っている。 また、この度、ご家族ならびに利用者に向けて心身の状態を把握すべく健康診断を実施する旨をご家族へ文書で通知し、9月に実施する予定である。		今後も継続できるよう、努める。
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等の管理について、その都度、情報の共有を図っているが、全職員が把握できているとは言いがたい。		常に情報の共有を図り、職員個々がある程度の把握ができるような環境作りに努めていきたい。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な人には、排便の状況が把握できるように、排泄チェック表を用いて把握に努め、必要に応じて、Drおよび看護師と連携を図り、円滑な排便ができるように心がけている。 また、食材においても、食物繊維が多く含まれる食材を使ったり、水分量にも注意をしている。		円滑な排便がなされるように、Drと看護師との連携を今後も引き続き行い、食材においても、職員個々が把握しているわけではないので、共有できるような環境を作る。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいをして頂けるようには、取り組んではいるが、現状では行えていない。 義歯の方においては、毎日夕食後に義歯の洗浄を行っている。		実績をつけるとともに、実際に口腔内の清潔が保持できるように、うがい・歯磨きを行っていただくように働きかけていく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事であるかどうかの根拠はない。 また、全職員が把握できているとは言い難いが利用者個々の嗜好に合わせた食事が提供できるように取り組んでいる。 体重の増加などに注意をし、月に1回は体重チェックを行っている。		『食』の委員会としての参加をしているが、GHとして必要になるような内容が少ない。 栄養摂取に関わる、食事の大切さを十分に理解し、定期的に、特養の栄養士と相談することで、GHとしての『食』のありがたさを再度見直していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を中心に、委員会での取り決め事項をミーティングやノートで伝達したり、感染予防セットを常に常備している。 また、年間を通して、食器を塩素系のハイター水溶液につけて消毒を欠かさず行っている。		今後も継続した、取り組みが行えるよう努める。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	委員会からの報告をもとに、開封時の日付を記載し、早めに使用するように心がけており。食材を購入する際には、購入頻度を多く、間隔を短く、するように心がけ、賞味期限切れの食材がでないように努めている。 食器を塩素系のハイター水溶液につけての消毒や、冷蔵庫内の消毒も行っている。		今後も、継続した取り組みが行えるように努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	靴をどこで脱いでいいのかわからない作りとなっているように思う。 また、職員の善意として、季節を感じてもらえるように、玄関は明るく、季節にちなんだ草木が並ぶように努めている。		偏りがないように、職員個々に対して、季節にちなんだ明るい玄関となるように推進していきたい。 靴をどこで脱いでいいのかわからない作りとして終わることなく、実際のその現状を打破できるように考えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間の中で生活していただけるような作りにはなっている。採光等にも注意を払い、必要に応じて日中でも採光の調節を行っている。 また、生け花等で行った季節にちなんだ花を飾っている。		現状の環境が維持できるように努めるとともに、生活感のある暮らしを演出していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるのは居室くらいではあるが、利用者個々で楽しんでいただけるように、努めている。 床几の畳を用いて、座れるスペースや共用空間は、屋内だけにとどまらず、屋外であっても散歩をできる環境にあり、散歩のコースには椅子等を置く配慮をしている。		現状の環境が維持できるように努めるとともに、生活感のある暮らしを演出していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち込みの制限はしておらず、家族がいつでも(ベットさえあれば)寝泊まりできる環境にある。また、居室では安心となる家族の写真を飾ったり、使い慣れた馴染みのある品を置いて貰うように、ご家族にその大切さを理解してもらい、居心地のよい居室となるよう努めている。		現状の環境がより、家庭に近づくよう、生活感のある暮らしを演出していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が自己管理できない場合や必要に応じて空調の調整を行い、天候のよい日には喚起するよう心がけており、尿臭や便臭がしないためのとりくみとして、各居室には、芳香剤をおいたり、『ゆーかりさん』の空中噴霧を行っている。		現状の環境がより快適になるよう、継続していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーにより段差のない生活の確保に努めたり、自立を目指した環境となるように努めている。しかしながら、シルバーカーなどが通る際の椅子と椅子との間隔が狭く、往来がしにくいことも見受けられる。		GHとして、「手すりのない暮らし」を提供しているが、利用者の不安を助長させるような作りともとれるように思う。お風呂など転倒が予測される個所には手すりの必要性があると思う。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力=出来る力と考えている。また、その見極めにおいて、普段の日常支援から、「できる、できない、できにくくなってきている」等の気づきを職員間で共有するようしており、必要に応じた対応ができています。第三者からみた、利用者を社会的弱者にしないような配慮にも心がけている。		全職員に周知を図れるよう、努めているが随時の小ミーティングや引き継ぎなどを通して、利用者にとってプラスになるようにつなげたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には、椅子の休憩所を設けたり、草木をならべたり、家庭菜園を行っている。また、ベランダに草木をおいたりしており、家庭菜園については、玄関前に置く事で、誰もが観察できる事を意図としている。		現状の環境がより、生活感、いごちのよいスペースとなるよう職員個々が自己研鑽し、活発な意見交換を行い、「楽しめる環境」になるよう努めたい。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目 (ユニット めぐみ 2F)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><del>毎日ある</del>            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p><del>ほぼ全ての利用者が</del>            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が            利用者の2/3くらいが  <del>利用者の1/3くらいが</del>            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p><del>ほぼ全ての利用者が</del>            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p><del>ほぼ全ての家族と</del>            家族の2/3くらいと            家族の1/3くらいと            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度  <del>たまに</del>            ほとんどない</p>

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<u>ほぼ全ての家族等が</u> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・委員会活動が年間を通して計画されており、実施や報告に至る過程が見える。
  - ・外食へ毎月1回必ず出かけることが出来ている。
  - ・外出も利用者が可能な限り公平に行けている。
  - ・理髪店への利用も馴染みのある場所へ出掛けている事ができている。
  - ・毎日、入浴できるような環境を夕方に作れている。
  - ・三食毎日、GHで作れている。
  - ・嗜好品を可能な限り楽しんでもらえるように取り組んでいる(お酒、煙草)
  - ・かかりつけ医を利用者の方が選択できるようにしている。
  - ・家庭菜園ができるような環境を整えている。
  - ・サルビア荘全体において、サルビア納涼夏祭り、サルビアカーニバルは他には引けを取ることのない、イベントだと思います。
- 支援の基本は『共に共存する』ことであると考えます。助け合い、補い合える関係作りに配慮しながら支援を行っています。また、周囲に自然が多い事から、天候が許す限り屋外でお茶を飲んだり話をしたりと、ゆとりの持てる生活の実現に向け取り組んでいます。尚、職員の配置及び総合的な支援の実現に向け、ユニットごとの職員の配置をせず、2ユニットを職員全体で勤務しています。